

# かぐらおが

(題字は初代学長 山田守英氏)

## 第 131 号

平成20年 1月15日

編集 旭川医科大学  
発行 教務部 学生支援課



クリスマスコンサート (病院玄関ロビー)

(写真撮影：学生支援課)

授業評価の公表 .....	2
医学科第2年次後期編入学式 .....	21
クリスマス・コンサート	
室内合奏団 .....	21
ブラスアンサンブル .....	22
合唱部 .....	23
平成20年度授業料の一括納付について .....	23
教員の異動 .....	24
トレーニングルームがリニューアルされました .....	24



# 平成19年度前期における「学生による授業評価」結果の公表にあたって

授業評価委員会委員長 林 要喜知

本学における「学生による授業評価」は、今回で7年目を迎えています。平成19年度前期の結果を、ここに公表いたします。

授業評価は、昨年までの方針に則って2つにわけてなされています。すなわち、(1) 個々の教員を対象とする「講義に対する学生評価」と(2) 総合科目を対象とする「企画に対する学生評価」であり、公表内容は、それぞれに関して下記の通りです。

## (1) 「講義に対する学生評価」について

- ① 評価を受けた教員全体がどのような得点分布を示しているかを表した表とグラフ (3ページ/上段)
- ② 部局別に各設問の最高点/最低点を示したグラフ (3ページ/中下段)
- ③ 評価項目 (問5～17) の平均点が高い上位3名について: 教員名、コメント、および評価結果 (4～5ページ)
- ④ 評価項目 (問5～17) の平均点が高い上位20%の教員名一覧 (6ページ)

## (2) 「企画に対する学生評価」について

- ⑤ 各科目に対する学生の評価結果とコーディネーターのコメント (6ページ以降)

今年度の評価は、平成16年度に改善された評価項目をそのまま用いております。これは、一定のアンケート方式で授業評価を行うことで、継続的な比較と過去の実施内容を総括していくためであります。学生の皆さんの意見を真摯に受け止め、さらなる授業改善に向けた方針を策定したいと考えて、本委員会でも改善案に関して定期的に話し合いを行っております。

本学では、助教を除いた講義担当者全員に対して授業評価を実施しております。また、オムニバス方式を採用している講義などが多いこともあり、皆さんは、他大学より評価の件数が多いと感じていることでしょう。しかし、例え1時間であっても、講義を担当する教員にとっては、評価結果はとても貴重な情報となります。

授業評価の結果は、本年度より教員の「教育に対する貢献度評価」に利用されており、教育に対する教員の意識にも少なからず影響を及ぼしております。このことが、皆さんや皆さんの後輩が受ける授業の改善に、必ずや役立つものと期待されます。

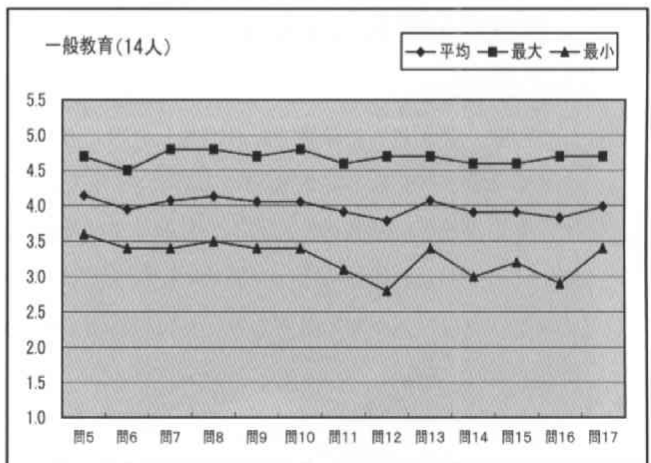
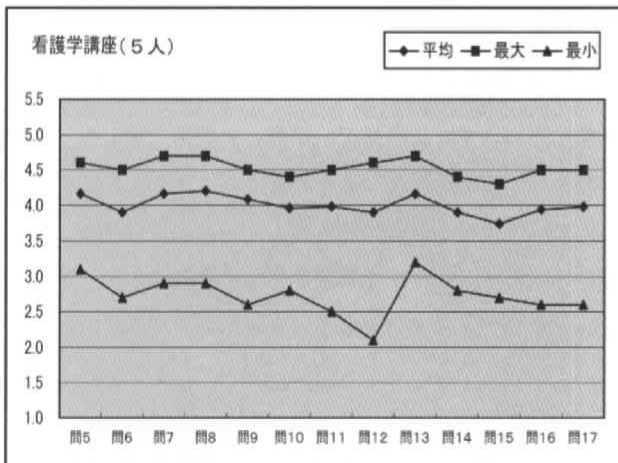
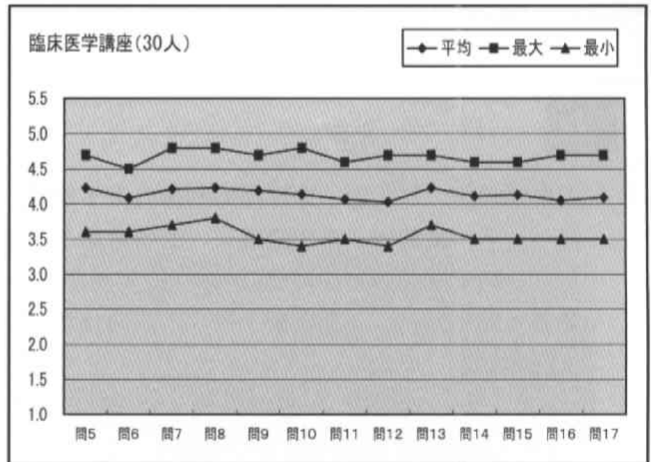
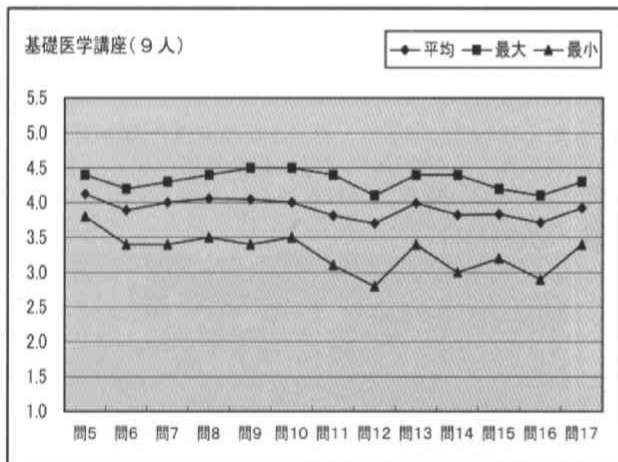
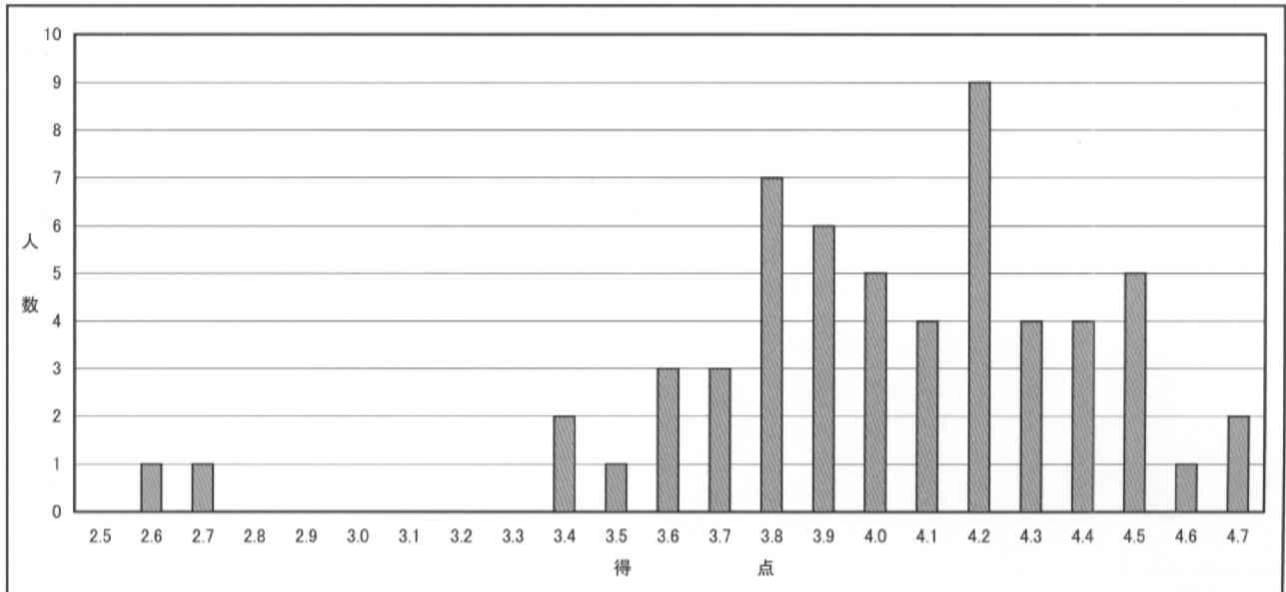
授業評価は、皆さんのアンケートに対する回答があってはじめて成り立つものです。この主旨をご理解いただき、今後もアンケート回答にご協力をお願いいたします。また、各授業担当者には、教育方法等の改善など今後の授業計画やその評価に関わる検討素材として、参考にしていただければと存じます。すべてコンピューター処理でおこなっております。その際のすべての作業や各教員への通知は学生支援課に一任しており、公明性を保つように配慮いたしております。

# 平成19年度前期「講義に対する学生評価」における全教員の得点分布

	得点																						
	2.5	2.6	2.7	2.8	2.9	3.0	3.1	3.2	3.3	3.4	3.5	3.6	3.7	3.8	3.9	4.0	4.1	4.2	4.3	4.4	4.5	4.6	4.7
人数	0	1	1	0	0	0	0	0	0	2	1	3	3	7	6	5	4	9	4	4	5	1	2

(合計58名 平均値4.0)

## 問5～17までの各平均点と最高・最低点



## 講義に対する学生評価

あなた自身について	問1 事前に履修要項や教科書を読むなど予習をしましたか。 問2 授業に毎回出席しましたか。 問3 授業中に授業内容を理解するための努力をしましたか。 問4 授業の復習・宿題を毎回しましたか。
講義計画	問5 各回の講義はよく準備がなされていましたか。 問6 履修要項は授業全体のポイントを理解する上で適切でしたか。
教育意欲・態度	問7 教育に対する情熱・熱意が感じられましたか。 問8 学生に接する態度は授業担当者として適切でしたか。
講義技術・内容	問9 明瞭で聞きとりやすい話し方でしたか。 問10 教材（プリント・スライド・板書など）は適切でしたか。 問11 講義において重要ポイントを強調してくれましたか。 問12 学生の反応を確かめながら講義していましたか。 問13 豊富な知識があり、かつ説明が論理的でしたか。 問14 授業の難易度は適切でしたか。 問15 各回の講義内容は量的に適切でしたか。 問16 今後の学習意欲を増す内容でしたか。
総合評価	問17 この授業は全体として満足できるものでしたか。

- ⑤ 強くそう思う（非常に良い）  
④ やや思う（良い）  
③ どちらとも言えない（普通）  
② あまりそう思わない（あまり良くない）  
① 全くそう思わない（良くない）

### 1

内科学講座（消化器・血液腫瘍制御内科学分野） 渡 二郎

科目名：臓器別・系別講義Ⅳ（医学科第3学年前期／必修科目）

日時：平成19年7月26日（木） 1講目

履修者数：95 配布数：71 回収数：44 回収率：62.0%

\*評価結果（平均）

問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17
4.7	4.6	4.7	4.7	4.7	4.8	4.8	4.5	4.7	4.7	4.7	4.7	4.7

\*評価に対するコメント

内科学講座（消化器・血液腫瘍制御内科学分野） 渡 二郎

この度、学生からの評価で好評が得られたことを大変光栄に思います。これまで、手厳しい評価を頂いたこともあり、自分なりに講義内容を再考し、「つまらない講義」にだけはしないよう心掛けてきました。元来、学生講義では国家試験のための基礎知識は勿論のこと、即実践に生かせる臨床知識も同時に教えなければいけません。そのために、講義では臨床で経験した実症例のスライドやビデオを用いることにしました。今後も、旭川医大卒業の教官として、後輩諸君に興味をもって参加できるような講義にすることを最低限の使命と考え、努力していきたいと思っております。

## 2

手術部 平田 哲

科目名：臓器別・系別講義Ⅳ（医学科第3学年前期／必修科目）

日時：平成19年7月24日（水） 3講目

履修者数：95 配布数：79 回収数：53 回収率：67.1%

\*評価結果

問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17
4.7	4.5	4.8	4.8	4.7	4.8	4.6	4.7	4.7	4.6	4.6	4.7	4.7

\*評価に対するコメント

手術部 平田 哲

学生さんから高い評価を受けて光栄です。たまたまその日の天候と相性の合ったクラスだったのではと思っております。我々の学生時代と比較し、最近の講義時間では、試験に出ないような外科治療の歴史や、そこに達した研究などの話をする余裕はなく、得意の駄洒落も出せず、講義時間に追われ満足感がありません。同様にそういう講義を聞かされる学生さんも楽しくはないのではないかと感じておりました。部活の後輩（バレー部、手術倶楽部）との会話で少しずつ講義方法も変えてきましたが、まだまだ反省ばかりです。医学教育には無駄とおもわれることもしっかり教えることが大切と考え、また次年度も『ベスト20』を目指し頑張りたいと思っております。

## 3

麻酔・蘇生学講座 岩崎 寛

科目名：臓器別・系別講義Ⅶ（医学科第4学年前期／必修科目）

日時：平成19年5月24日（木） 1講目

履修者数：94 配布数：49 回収数：33 回収率：67.3%

\*評価結果（平均）

問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17
4.6	4.5	4.8	4.6	4.5	4.6	4.6	4.5	4.6	4.4	4.4	4.5	4.6

\*評価に対するコメント

麻酔・蘇生学講座 岩崎 寛

私の講義が学生評価で上位3人に選ばれたことを素直に喜んでおります。当講座では毎年の講義のための資料を製本して前もって配布してきている。これは、講義のポイントを明確にすることと要点のみを記入すれば臨床の必要・重要な事項を理解できるようにするためである。また、講義資料が散逸しないようにすることも重要と考えているからである。実際、5、6年生が臨床実習にこの講義資料を持参してくるのを見ているとその有用性を実感する。今後もこの評価を糧により理解しやすく、有益な時間を共有することが実感できる講義を目指して行きたいと改めて思っております。

以下、上位20%内の教員は次のとおりです。（\*五十音順）

所属名	教員名	科目名		日 時	学年	履修者数	配付数	回収数	回収率(%)
外科学講座 (消化器病態外科学分野)	石 崎 彰	臓器別系別講義Ⅳ	必修	平成19年9月4日(火)	医3	95	92	43	46.7
看護学講座	伊 藤 幸 子	母性看護学	必修	平成19年8月30日(木)	看3	63	61	60	98.4
外科学講座 (消化器病態外科学分野)	稲 垣 光 裕	臓器別系別講義Ⅳ	必修	平成19年8月31日(金)	医3	95	61	60	98.4
非常勤講師	エリック・ハジメ・ジューゴ	フランス語講読	選択	平成19年9月7日(金)	-	19	15	15	100.0
内科学講座 (循環・呼吸・神経病態内科学分野)	大 崎 能 伸	臓器別系別講義Ⅰ	必修	平成19年5月23日(水)	医3	95	73	48	65.8
看護学講座	黒 田 緑	母性看護学	必修	平成19年6月7日(木)	看3	63	61	61	100.0
外科学講座 (消化器病態外科学分野)	河 野 透	臓器別系別講義Ⅳ	必修	平成19年9月3日(月)	医3	95	87	39	44.8
麻酔蘇生学講座	鈴 木 昭 広	臓器別系別講義Ⅷ	必修	平成19年5月25日(金)	医4	94	51	22	43.1
生命科学	林 要喜知	人間科学Ⅰ	必修	平成19年7月27日(金)	看1	60	52	52	100.0

## 科目全体の講義企画に対する学生評価

あなた自身について	問1 事前に履修要項や教科書を読むなど予習をしましたか。 問2 授業に毎回出席しましたか。 問3 授業中に授業内容を理解するための努力をしましたか。 問4 授業の復習・宿題を毎回しましたか。
科目構成	問5 科目全体の履修目的は、履修要項やガイダンスで明確に示されましたか。 問6 履修主題間および教員間で、内容の過度な重複は避けられていましたか。 問7 各履修主題に割り当てられた時間のバランスは適切でしたか。 問8 各担当教員は履修主題に沿って授業を行いましたか。
科目内容	問9 各履修主題の難易度は適切でしたか。 問10 科目全体の内容は理解しやすいものでしたか。 問11 科目全体の履修の目的は最終的に達成されましたか。 問12 科目全体の内容は今後の学習意欲を増すものでしたか。 問13 試験や提出物（レポートなど）の量と内容は適切でしたか。
総合評価	問14 この授業は全体として満足できるものでしたか。

- ⑤ 強くそう思う（非常に良い）  
④ やや思う（良い）  
③ どちらとも言えない（普通）  
② あまりそう思わない（あまり良くない）  
① 全くそう思わない（良くない）

科目名：社会医学基礎Ⅰ（医学科第1学年前期／必修）

履修者数：92 配布数：89 回収数：88 回収率：98.9%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
2.5	4.0	3.7	2.6	4.3	4.3	4.2	4.3	4.2	4.2	4.1	3.9	4.0
問14	問15	問16	問17	問18								
4.2												

＊評価に対するコメント

社会学基礎Ⅰコーディネーター 藤尾 均

医学科1年生の必修科目で、コアカリA「基本事項」の「医の倫理と生命倫理」に完全に対応している。テーマは大別して3つ、すなわち、①医学・医療の歴史的な流れとその意味の概説、②生と死に関わる倫理的問題の列挙、③医の倫理と生命倫理に関する規範（ヘルシンキ宣言など）の概略である。

本年度は4月から7月にかけて筆者が①～③について13コマ講義した後、7月最後の2コマを吉田学長と松野病院長にお願いし、それぞれ「医学への招待」「臨床医学への招待」と題して、講義というよりは講話をしていただいた。

科目全体の評価は例年と同様であり、概して高かったと一応は自負できる。とくに学長の話は夢とロマンを感じさせるもので、学生には好評であった。筆者の講義の反省点といえば、ここ数年同じ講義資料を使っているために統計データが若干古くなってしまっている点と、講義一辺倒で学生参加型の授業ではなかった点があげられる。

科目名：生命医学Ⅰ（医学科第1学年前期／必修）

履修者数：94 配布数：90 回収数：90 回収率：100%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
3.0	4.5	4.1	3.2	4.2	3.9	4.1	4.3	3.9	3.8	4.0	4.1	3.7
問14	問15	問16	問17	問18								
4.2												

＊評価に対するコメント

生命医学Ⅰコーディネーター 上口 勇次郎

本科目は生物学を主体とした講義で、生命科学Ⅱ～Ⅺの基礎となる導入コースである。昨年と同様に今年も講義企画の総合評価（問14）で比較的良好な評価（4.2）を受けたので、基本的な講義の枠組みは来年度も現行通りとしたい。講義資料提示についていくつか細かな指摘を受けたので、それらの点についてはさっそく改善したい。「高校生物非履修者に対する配慮が足りない」という昨年度の指摘に答えて今年から「自然科学入門」（理科基礎補修コース）を新設したが、それでも今回また昨年と同様の指摘を受けた。受験での生物選択と非選択のギャップはやはり簡単には埋まらないようだ。来年度からは、大学での講義に関連する受験理科3科目（物・化・生）を入試センター試験で課すことになったので、上の問題はかなり解消されるだろう。

予習（問1）と復習（問4）が足りないという学生自身の自己反省も授業評価の重要な点である。これらの反省はぜひ他科目の学習に教訓として生かしてほしい。それなくして試験・レポートが負担（問13）というのでは困る。

科目名：生命科学Ⅱ（医学科第1学年前期／必修）

履修者数：93 配布数：90 回収数：89 回収率：98.9%

\*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
2.7	4.3	3.6	2.8	3.7	3.7	3.4	3.8	3.2	2.8	3.1	2.8	3.2
問14	問15	問16	問17	問18								
3.0												

\*評価に対するコメント

生命科学Ⅱコーディネーター 山内一也

この科目は物理を主体に、関連した医療技術の初等原理を学ぶため、一般教育、基礎医学、臨床医学の教員が講義する総合科目の一つである。多様な入試制度に基づき入学した物理についての理解度が異なる学生を、半年間（4単位＝60時間）という限られた期間で一定レベルまで引き上げるのは容易ではない。学生評価の平均は別表に示す通りであるが、良い評価から悪い評価までばらつきが大きいのも事実である。昨年度から、リメディアル教育として自然科学入門（入学直後の2週間で20時間を開講）を開講し、物理の未履修者に対する指導を実施している。また、今年度は教員の退官・転出等により総合科目の教員構成も大きく変わった。にもかかわらず過去の学生評価と比べても大きな変化はなかった。講義の方法論も問題であろうが過密な講義スケジュールも小さくない問題であろう。今後のカリキュラム改正で改善されることを望む。

科目名：生命科学Ⅲ（医学科第1学年前期／必修）

履修者数：94 配布数：90 回収数：89 回収率：98.9%

\*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
2.5	4.3	4.2	3.0	4.0	4.3	4.2	4.4	3.8	3.6	3.8	3.5	3.9
問14	問15	問16	問17	問18								
3.8												

\*評価に対するコメント

生命科学Ⅲコーディネーター 山内一也

生命科学Ⅲの授業内容は、コンピューターリテラシーと統計学の初歩を学ぶことにある。クラスをA組、B組の2クラスに分け、A組がコンピューターリテラシーを受けているときは、B組は統計学の授業を受けるというようにして、担当教官には負担増となるが、週2回の授業を展開している。「あなた自身について」という評価の項では、2.5、4.3、4.2、3.0という評価であるが、出席状況の評価が高いのは、コンピューターリテラシーでは毎回レポートを提出しなければならないこと、統計学の授業では、毎回小テスト行うという授業形態によるものであると思われる。「科目構成」という評価の項では、4.0、4.3、4.2、4.4という評価なので一応の評価を受けたと考えられる。「科目内容」という評価の項では、3.8、3.6、3.8、3.5、3.9とはほぼ前回と同じ評価であった。「総合評価」では3.8という評価なので一応の評価を受けたと考えられる。



科目名：社会医学基礎Ⅲ（医学科第2学年前期／必修）

履修者数：88 配布数：82 回収数：75 回収率：91.5%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
2.9	3.9	3.4	3.1	3.6	3.7	3.5	3.6	3.6	3.5	3.5	3.5	3.4
問14	問15	問16	問17	問18								
3.5												

＊評価に対するコメント

社会医学基礎Ⅲコーディネーター 田中 剛

医療面接における「コミュニケーション能力」をテーマにしての講義を13回、産婦人科学と法医学にかかわる「医療と社会」をテーマにしての講義をそれぞれ1回行った。従来通りの社会心理学的な講義内容に加えて、今回は医師－患者間のラポール形式の技術面をこれまで以上に詳細に論じ、スクリーン映像によっても、学生諸氏が医療現場での実際例を視覚的に確認・分析できるように心がけた。勿論、理想的には標準模擬患者の協力を得たい。しかし、そこに至る前に人間対人間のコミュニケーションの背後にある多様な価値観、それを洞察する能力の涵養が重要である。受講した学生諸氏は映像を通して難しい問題がそこに潜んでいることを認識できたと思う。次年度は講義内容をいくらかスリム化し討論の場を多く設け、グループごとの報告も取り入れるつもりでいる。

科目名：生命科学Ⅷ（医学科第2学年前期／必修）

履修者数：92 配布数：91 回収数：89 回収率：97.8%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
2.9	3.6	3.6	3.3	3.9	3.9	3.8	4.1	3.5	3.4	3.6	3.6	3.4
問14	問15	問16	問17	問18								
3.6												

＊評価に対するコメント

生命科学Ⅷコーディネーター 谷口 隆信

生命科学Ⅷは代謝の基本的な部分に関する内容で、2年次では医学部らしい講義と言えます。主な御意見は3つ、試験時期（5/19）、宿題・小テスト（4/19）、教科書（4/19）についてでした。いずれにおいても賛否あると思いますが、試験時期については前期試験での生命科学の惨状を観ると、結局どこへ持って行っても同じ、講義、実習という流れの中でメリハリを付け、かつ前期試験の負担を少しでも減らす意味でこの時期がベストと考えています。宿題・小テストについては概ね好評ですが、気になる点の一つあり以下引用します。「小テストは試験勉強をする上で役に立ちましたが、解答がなかったため解くのに時間がかかりました。できれば小テストの解答も欲しかったです」ということですが、時間をかけて解いてそれが勉強というものでしょう。医学部入試の難関を突破して来た諸君のすばらしい頭脳も、常に鍛えて行かないと落ちてきます。答えがないと分からない、分かってほしい、病気の人が自分の病気はこれですと、誤った答えを持って来ることはあっても、正しい答えを持って来てくれることはまずないと思います。医学は日々拡大し社会的要請も高まっている現状を理解し、21世紀の医師を志す学生諸君には、難解な課題に敢えて取り組み自ら進んで勉強するという学究的姿勢も身につけて頂く必要があると考えます。最後の教科書については講師の責任において総合的な観点から選定しており、諸君の学年が進みあるいは卒業後に機会があれば、また御意見を頂きたいと存じます。

科目名：生命科学Ⅹ（医学科第2学年前期／必修）

履修者数：90 配布数：86 回収数：84 回収率：97.7%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
3.1	3.5	3.6	3.2	4.0	3.9	3.8	4.0	3.7	3.5	3.8	3.7	3.7
問14	問15	問16	問17	問18								
3.7												

＊評価に対するコメント

生命科学Ⅹコーディネーター 柏柳 誠

教官の講義に対する評価項目である問5～14の平均は、一昨年3.7、昨年3.9、今年3.8と変化はあまり見られなかった。自由記載欄の一つに、授業評価が講義の改善に役立つかどうかという疑問が呈された。しかしながら、今年度の自由記載欄におけるクレームが少なかったことは、学生からの評価を参考にして教官が着々と講義を改良してきたことを示していると思われる。ただし、コーディネーターが担当した講義に限って考えてみると、4割近くの学生が講義に出席していなかった。一方、98%余りの学生が生命科学Ⅹ全体の講義内容に関して評価している。このため、実際の講義の様子を知らないで自由意見が書けなかった可能性も除外することはできない。今後は、学生が進んで出席するような講義を展開するために、より一層の工夫が必要と思われる。

科目名：生命科学Ⅹ（医学科第2学年前期／必修）

履修者数：92 配布数：91 回収数：78 回収率：85.7%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
3.3	3.5	3.5	3.1	3.8	3.6	3.8	3.8	3.6	3.5	3.7	3.8	3.6
問14	問15	問16	問17	問18								
3.7												

＊評価に対するコメント

生命科学Ⅹコーディネーター 立野正敏

生命科学Ⅹは、免疫学を履修する科目である。生命科学の分野でも専門用語の量、複雑さがあり、理解し、習得するために多くの自習時間を必要とする。学生の評価では、全体として3.5以上の評価はあるが、4.0には達していない。やはり講義内容の量やその難解な部分についてのコメントなどは、それを反映しているものと考えられる。講義内容としては、自然免疫から獲得免疫までを主にカバーしているが、養護の習得度、達成度により、受講生により理解度に差が生じると考えられる。学生の自学自習の評価ポイントも問1（3.3）、問4（3.1）と低く、もう少し自己学習に時間を費やすことが望まれる。昨年度のコメントにも記載したが、他の課目より自己学習時間を多くとり、基本的な免疫学用語を理解することに重点を置いて欲しい。講義内容では、学生にとって難解な部分、重複した内容についての時間配分、構成について再度検討していきたい。

科目名：生命科学XI（医学科第2学年前期／必修）

履修者数：93 配布数：90 回収数：84 回収率：93.3%

\*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
3.1	4.2	3.7	3.2	4.0	3.9	3.9	4.0	3.8	3.6	3.9	3.6	3.8
問14	問15	問16	問17	問18								
3.7												

\*評価に対するコメント

生命科学XI コーディネーター 田中邦雄

本科目は第2学年の前期に開講され、その内容は各種画像診断技術を中心に医用工学、放射線物理学など学生にとってこれまでなじみのない多岐にわたる内容を含んでいる。講義の進め方はほぼ例年通りである。学生自身についての評価としては、昨年に比べて予習、復習に取り組む学生が増加している。また、科目構成に関する評点も昨年と同様4前後であり、本科目企画に対する理解はほぼ定着したものと考えられる。科目内容については、例年「問10」の内容の理解が最も低い（昨年は3.3）評価であったが、今年度は3.6であり回答者の6割が4以上の評価であった。しかし、総合評価は3.7と昨年（3.9）より低下した。前期試験の平均点は66点と、問題のレベルは例年と同程度にもかかわらず昨年より6点ほど低く再試験該当者は20名に及んだ。これらの結果を総合すると、講義を熱心に聴き自らノートをとる学生と、そうでない学生とに2極化していることが窺える。引き続き評価の向上を目指して講義を進めたい。

科目名：臨床医学概論I（医学科第3学年前期／必修）

履修者数：95 配布数：95 回収数：91 回収率：95.8%

\*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
2.9	4.4	4.0	3.3	4.3	4.3	4.2	4.3	4.3	4.2	4.2	4.2	4.3
問14	問15	問16	問17	問18								
4.3												

\*評価に対するコメント

臨床医学概論I コーディネーター 藤尾 均

モデル・コア・カリキュラムの「A基本事項」の発展的内容と「F医学・医療と社会」の基礎的内容を扱う医学科3年生の必修科目で、本年度の担当コマ数は、健康科学講座7、法医学講座5、歴史・哲学（筆者）3であった。諸般の事情で、科目名と履修内容とが一致せず、現行カリキュラムの矛盾を集約したような科目である。医事法規の話あり、中毒の話あり、死の人為的操作の話あり、保健所・保健センターの話ありと、まとまりがなく、今年も学生には迷惑をかけた。にもかかわらず評価の数値は概して高かった。この結果は、講義内容というより、無理・無駄・ムラがなく、CBTや国家試験にも役立つような択一形式の期末試験に負うところが大きいのであろう。

なお、来年度からはコーディネーターを健康科学講座の吉田貴彦教授が務めてくださることになっている。矛盾点につき、いろいろ改善してくださるものと期待している。

科目名：医療情報学（医学科第3学年前期／必修）

履修者数：95 配布数：93 回収数：80 回収率：86.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
2.8	4.3	3.8	3.0	4.0	4.1	4.1	4.4	4.2	3.9	4.0	3.6	4.1
問14	問15	問16	問17	問18								
3.9												

＊評価に対するコメント

医療情報学コーディネーター 廣川博之

医療情報学は昨年度と同様に、1) 医療情報に関する基礎理論、2) 医療情報管理、3) 医療経済、4) 医療情報の社会医学への応用の4つのテーマで構成されている。これらはいずれも医療情報学で扱う重要な領域であるが、学生諸君からは理論的、技術的な事項より、臨床に関連するような具体的な事例等に時間を割いてほしいといった指摘をいただいた。臨床医学を学ぶ前に開講されるため、理解しがたい面があったかと思われる。来年度の講義の展開順序、内容等を決める上での参考にした。

また、昨年と同様に他の授業との重複に関する指摘や、授業が終了してから試験までの期間が長いとする意見が複数あった。今後の検討課題としたい。

科目名：臓器別・系別講義I（医学科第1学年前期／必修）

履修者数：95 配布数：94 回収数：60 回収率：63.8%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
3.2	4.2	4.1	3.2	3.9	3.6	3.6	3.8	3.7	3.7	3.8	4.2	3.6
問14	問15	問16	問17	問18								
3.8												

＊評価に対するコメント

臓器別・系別講義Iコーディネーター 笹嶋唯博

コーディネーターにとって評価は大変参考になる。満足して頂いた学生も少数いるが、今回の企画における問題点を要約すると、呼吸器と循環器の講義が入り乱れ、知識として整理がつけずらかったことが指摘され、講義全体の子定を前もって明示してもらいたいという要望が最も多かった。このほか、英語プリントへの抗議、集中講義の欠点として講義内容を整理する時間的な制約が上げられた。また、外科の講義に対しては、講義内容の重複、プリントの不備、試験問題の難解さや不適切、略語の多用など多岐にわたる指摘があった。外科医の場合、講義予定の変更や準備不足は緊急または準緊急手術が優先せざるを得ない臨床上の制約に由来する。内容の充実が可能としても、大学講師と第一線の外科医を兼任している現状では講義の変更や交代すら困難な場合があり、講義予定が長期にわたるほどにこれらの問題をどう解決するか大きな課題である。

科目名：臓器別・系別講義Ⅳ（医学科第3学年前期／必修）  
履修者数：95 配布数：87 回収数：65 回収率：74.7%

\*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
3.3	4.2	4.0	3.6	4.0	3.9	3.9	4.0	4.0	4.0	4.1	4.3	4.0
問14	問15	問16	問17	問18								
4.1												

\*評価に対するコメント

臓器別・系別講義Ⅳコーディネーター 葛西 眞一

本講義は、消化器とくに上・下部消化管と肝胆膵を中心とした診断と治療の総論・各論について、消化器内科医、外科医を中心に放射線科および学外講師などあわせて約20人の先生方に、75コマを集中的に約1ヶ月半の間に講義をして頂く。従って、学生にとっては負担に思う人達と、かえって理解しやすいと感じる人達にわかれる。試験までに期間が少ない事と問題数がかかなり多い事を負担に感ずる様だが、落第点は一割弱なので妥当なところと判断される。科目構成では一部重複がみられ、また主題割り当て時間のアンバランスが指摘され、ともに評点3.9は今後の検討課題であろう。科目については全て評点4.0以上であり、総合評価も4.1を得られた事は、本講義自体は概ね受け入れられているものと判断される。

科目名：社会医学（医学科第4学年前期／必修）  
履修者数：94 配布数：92 回収数：75 回収率：81.5%

\*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
3.2	4.3	4.0	3.4	4.2	4.2	4.2	4.3	4.2	4.2	4.2	4.1	4.2
問14	問15	問16	問17	問18								
4.1												

\*評価に対するコメント

社会医学コーディネーター 吉田 貴彦

衛生学、公衆衛生学、法医学が統合された「社会医学」が第4学年に開講されて3年目となり、第3学年開講の臨床医学概論Ⅰ・Ⅱと連動させてバランスを調整しつつ講義を展開してきたが、第4学年が完成型を経験した初めての学生となった。そのため、3、4学年を通して比較的ゆっくりと「社会医学」の全体を学習できたのではないかと思う。内容が、臨床医学に近い領域から、保健統計・疫学、医療行政・法規など暗記中心の領域までと範囲が広く、学習するうえで学生さんは苦勞されたと思うが、総合評価が4.1、各個別評価も4点台であり、おおむね良く評価していただいた。医師国家試験の出題傾向の変化からもわかるように、今後の医療において疾病予防の重要性が増すことは間違いない。より、興味を持たれやすくする工夫を今後も心掛けたい。社会医学で学んだ健康の保持増進の考え方を忘れずに、患者様を含めた地域住民への健康指導の良き実践が出来るように期待します。

科目名：臨床医学概論Ⅲ（医学科第4学年前期／必修）

履修者数：94 配布数：92 回収数：68 回収率：73.9%

\*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
3.1	4.7	3.7	3.1	3.9	4.1	3.9	4.1	4.0	4.0	4.0	3.8	4.0
問14	問15	問16	問17	問18								
3.9												

\*評価に対するコメント

臨床医学概論Ⅲコーディネーター 奥村利勝

平成17年度の医学科に新規開講した本医学概論Ⅲはチーム医療の実際をテーマに医療の現場で医師を取り巻くコメディカルの方たちを理解することに重点を置き講義を構築してきました。この講義以外で聞く事のないコメディカルの方たちからのお話がいただける貴重な場と考えています。開講後、看護師の業務に加え、本大学病院に勤務する各種認定看護師の資格を取得したWOC認定、癌化学療法、NICU認定、糖尿病認定看護師と特別な資格をお持ちの看護師の方々からの講義も順次加えてきました。より学生に興味深い内容になるものと期待しております。学生からの今後の学習意欲に対する評価（問14）は3.9で前年及び前々年の3.6より若干の改善が認められましたが、まだまだ改善点の余地は残されています。臨床実習や研修の段階になると本授業の重要性が再認識されると思いますが、4年生の前臨床実習段階の学生により学習意欲を増加させるように講義構成の工夫を重ねることが必要を考えています。

科目名：臓器別・系別講義Ⅶ（医学科第4学年前期／必修）

履修者数：98 配布数：97 回収数：49 回収率：50.5%

\*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
3.3	4.1	3.8	3.5	3.7	3.5	3.5	3.5	3.3	3.4	3.5	3.5	3.0
問14	問15	問16	問17	問18								
3.3												

\*評価に対するコメント

臓器別・系別講義Ⅶコーディネーター 藤枝憲二

臓器別・系別講義Ⅶは、産婦人科、小児科、泌尿器科、小児外科の各講座が担当し、女性の Reproductive health、婦人科腫瘍学と胎児・新生児・小児・思春期における内科・外科疾患を理解することを目的として設定されたコースである。特に Developmental biology の視点で理解が必要な小児科学講義が主に成人を対象とした各臓器別講義内に一部組み込まれたこともあり、総合した形で小児科学を提供できていないことが、コース担当者にとって改善すべき点である。しかし、本コースが広範囲で難しい授業内容であるにも関わらず、内容はよく、またわかりやすかったとする意見が多く、講義を担当したものの熱意とコースの意図が十分に理解されたものと判断される。授業そのものは学習すべき事項を提示するにとどまるものであること、また試験に合格することのみを目的とした授業ではなく将来にわたり有益な情報を伝えることを主眼としていることを理解し、より一層の自学自習が必要とされることを再確認してほしい。

科目名：臓器別・系別講義Ⅷ（医学科第4学年前期／必修）

履修者数：94 配布数：92 回収数：75 回収率：81.5%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
3.2	4.2	3.9	3.2	4.1	4.1	4.1	4.3	4.1	4.1	4.1	4.1	4.0
問14	問15	問16	問17	問18								
4.1												

＊評価に対するコメント

臓器別・系別講義Ⅷコーディネーター 松野 丈夫

臓器別・系別講義Ⅷは、麻酔科蘇生科講座、救急医学講座、整形外科科学講座の3科で担当させて頂きました。各科毎に、約1週間程度の間、朝から晩まで同一科目の集中講義という形式でした。

アンケートの結果からは、科目構成に関して、履修目的の周知、内容、バランスに関して大きな問題はなかったと判断しております。また、科目内容の項目についても全項目4点以上のアンケート結果であり、講義内容についても評価していただけたものと考えております。ただ、(あなた自身について)のなかで、予習・復習の評価は3点台と低い回答でした。この点に関しては、履修要項の活用等を通じて、今後改善してゆくべき点であると認識しております。

以上簡単ですが、評価に対するコメントとさせていただきます。

科目名：臨床放射線医学（医学科第4学年前期／必修）

履修者数：94 配布数：94 回収数：81 回収率：86.2%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
3.0	4.5	3.9	3.2	4.0	4.2	4.0	4.3	4.1	4.0	4.1	4.0	4.0
問14	問15	問16	問17	問18								
4.0												

＊評価に対するコメント

臨床放射線医学コーディネーター 油野 民雄

臨床放射線医学は、放射線診断学、放射線治療学、核医学及びIVRより成り立っている。臨床各科と関係する学際的な領域のため、臨床検査学とともに、臓器別・系別講義とは切り離された一つの独立した講義として存在する。一方、放射線・放射能を利用しているため、医療放射線の安全防護の観点からも、放射線物理学および放射線生物学の知識も不可欠である。当大学の教育方針は総合科目を基本方針としており、また臨床放射線学で与えられた時間数は15時間に制限されている。この15時間に講義で放射線医学の全てを行うのは困難であり、総合科目の中でいくつか与えられた時間数を利用することになる。即ち1年前期の生命科学Ⅱで放射線物理学、放射線生物学が、総合科目Ⅺで医用生体工学の一貫として放射線医学に関連した重要な応用工学が行われており、このような知識の土台の上に、またその延長線上として放射線・放射能を用いた臨床が成り立っている。講義終了後の試験は、放射線医学に関する知識の習得を確認する最後の機会のため、放射線医学全般に亘って実施している。学生諸君からは15時間で実施した内容に限って試験を実施して欲しいとの希望が多いため当然のことながら不評であるが、放射線医学を担当する責任者として、このまま放射線医学全般に亘る試験を続ける積りである。なお、授業評価に関しては、3点台は授業を受ける学生自身の自己評価であり、授業を実施している教官の評価は4点台であり、この結果に概ねホッとしている。

科目名：人間科学 I（看護学科第 1 学年前期／必修）

履修者数：60 配布数：60 回収数：59 回収率：98.3%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
2.1	4.2	4.0	2.3	4.0	4.2	4.0	4.4	3.6	3.6	3.9	3.9	3.8
問14	問15	問16	問17	問18								
4.2												

＊評価に対するコメント

人間科学 I コーディネーター 林 要喜知

学生評価の平均が3.96であり、数字的にはもう少し向上させることが求められている。特に、問9や10が3.6であることから、やや理解が困難で、難易度が高い内容になっている箇所があるのであろう。より理解しやすい講義となるように今一度講義内容を精査し、学生に興味と意欲を与えられる講義に改める必要性を感じている。このような評価結果は、一つには三教員によるオムニバス方式のマイナス面を、学生が微妙に感じたためかもしれない。各教員間の連携をはかりながら、講義全体の統一性を高めていくべきであると反省している。一方、問14は4.2であることから、ある一定の満足度は感じ取ってもらっている側面もある。本講義の定期試験では、毎年、再試対象者となる学生が数名出ていることから、講義の展開に合わせたフォローを早めに行っていく必要性が感じられる。例えば、中間試験や小テストを実施したり、オフィスアワーの活用等により、学生からの質問にきめ細かく応える体制を強化したいと考えている。

実習企画（または演習企画）に対する学生評価

あなた自身について	問1 事前に配布された資料を読むなど予習をしましたか。 問2 実習（演習）に毎回出席しましたか。 問3 実習（演習）に積極的かつ真面目に参加しましたか。
実習（演習）計画	問4 実習（演習）の目的は履修要項やガイダンスで明確に示されましたか。 問5 実習（演習）はおおむねスケジュールに沿って行われましたか。 問6 学生数に対して指導担当者数は適切でしたか。 問7 指導担当者は適切な指導能力を備えていましたか。 問8 指導担当者間の連携は適切でしたか。
実習（演習）内容	問9 実習（演習）の内容は、関連する講義科目の内容と対応がとれていましたか。 問10 事前に配布された資料は、実習（演習）を進める上で役立ちましたか。 問11 実習（演習）によって技術を十分に習得することができましたか。 問12 実習（演習）内容の難易度は適切でしたか。 問13 課された提出物（レポートなど）の量や内容は適切でしたか。 問14 実習（演習）は今後の学習への意欲を増す内容でしたか。
実習（演習）環境	問15 実習（演習）用の設備・機材・用具などは性能と量の面で十分でしたか。 問16 安全に対する適切な指導と配慮がなされていましたか。 問17 学生の人権に対する配慮がなされていましたか。
総合評価	問18 この実習（演習）は全体として満足できるものでしたか。

- ⑤ 強くそう思う（非常に良い）
- ④ やや思う（良い）
- ③ どちらとも言えない（普通）
- ② あまりそう思わない（あまり良くない）
- ① 全くそう思わない（良くない）



科目名：生命科学実習Ⅰ（医学科第1学年前期／必修）

履修者数：94 配布数：89 回収数：89 回収率：100%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
3.2	4.9	4.4	4.3	4.7	3.9	4.6	4.3	3.9	4.2	4.0	4.1	3.8
問14	問15	問16	問17	問18								
4.0	4.1	4.4	4.5	4.3								

＊評価に対するコメント

生命科学実習Ⅰコーディネーター 上 口 勇次郎

この科目は、医学科学生が入学後最初に取り組む実習で、生命科学実習Ⅱ～Ⅷへと続く入門コースである。学生の自己評価では、予習をしたかという点で反省があるものの（問1）、実習への取り組みは真剣であり（問2、3）、教員もこの点では学生を高く評価している。実習計画、実習内容、実習環境など教員側の企画（問4～17）の点では、昨年と同様に学生の評価が比較的高く、総合評価（問18）で4.3という評点だったので、今後も基本的には現行の実習形態を続けながら小さな改善を積み重ねて行く予定である。一部の学生はレポート課題に負担を感じているようだが（問13）、学習効果を考えて敢えて高めの要求水準を設定している。講義内容と実習内容の対応（問9）に関しては今後さらに検討、改善したい。実習指導教官不足（問6）に関しては我々自身も痛感していることであるが、教員増は実現困難であり、改善の目途はたっていない。

科目名：生命科学実習Ⅴ（医学科第2学年前期／必修）

履修者数：92 配布数：76 回収数：75 回収率：98.7%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
3.1	4.7	3.8	3.5	3.6	3.6	3.3	3.4	3.6	3.5	3.4	3.5	3.4
問14	問15	問16	問17	問18								
3.3	3.5	3.7	3.4	3.3								

＊評価に対するコメント

生命科学実習Ⅴコーディネーター 高橋雅治

実習の計画、内容、環境についての評価は、すべての項目が「普通」と「良い」の間であり、得点は前年よりも低下した。また、自由記載では、「分野ごとに評価をわけろべき」、「ある分野の実習は大変興味深かった」、「ある分野の実習は結局何をしたいのかよくわからなかった」等の意見が見られた。

実際、生命科学実習Ⅴは、心理学、社会医学、健康医学という3つの分野から成り立っており、全体の企画だけを評価する現行の評価法では、各分野の実習企画を個別に評価することができない。また、実習内容の評価は全く行われないため、ある教員がどんなに優れた実習を行っても、それが教員評価に反映されることはない。

この問題を解決するためには、異分野の実習をひとつの実習にまとめることをやめること、及び、現行の企画評価に加えて、実習内容の評価もまた導入することが必要であると思われる。

科目名：生命科学実習Ⅵ（医学科第2学年前期／必修）

履修者数：89 配布数：84 回収数：43 回収率：89.3%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
4.2	4.3	4.1	4.1	4.1	4.0	4.0	4.0	3.9	4.2	4.0	4.0	3.9
問14	問15	問16	問17	問18								
4.0	4.0	4.1	3.9	3.9								

＊評価に対するコメント

生命科学実習Ⅵコーディネーター 鈴木 裕

生命科学Ⅶ、Ⅷにおける生化学分野の講義が第2学年前期に集中することにあわせ、その過程で実習を展開するものとしてカリキュラムが計画されている。昨年度までの反省に基づき、今年度から生命科学Ⅶの試験を実習直前に行ない、実習実施に不可欠な知識を確実に身につけていただき実習に取り組めるようにもくろんだ。これにより、生化学及び基礎医学研究に対する親和性と興味、理解の促進に繋がったと思われる。“あなた自身について”（問13）の高い評価値に顕著に現われたように、皆さんが自ら興味を持って積極的に実習に取り組んでくれたことは教員としてたいへんありがたい。他の評価項目（実習計画・内容・環境・総合評価）のいずれもほぼ4.0～4.2（最低点3.9）とおおむね良い評価を得た。以前に指摘された問題点、指導教員間の差異・連携の適切性（問8）についても“緻密な連携による丁寧な実習指導”を目指し改善を積み重ねてきた結果、評価点（4.0）および自由記載コメントにも良い結果として現れた。さらに改善していきたい。また、各教員それぞれが持つ高くユニークなポテンシャルを感じることができた学生の皆さんも多くいたことはたいへん喜ばしい。さらに、皆さんのコメントの多くから分かるように、2週間の長丁場にもかかわらず集中力を切らさず取り組めたこと、またチームワークの重要性を認識できた方が多くいたことは、実習の他の側面としての意義も十分果たされたと感じている。一方、皆さんが実験や解析を進める上で直面する数々の問題については、まずは、自ら解決するための思考と試行を实践するよう、よりいっそうの努力を期待したい。もちろん教員側も適切かつ丁寧な指導を実施するよう準備しているが、臨床医としてまた医学研究者としての将来の活躍を期待される皆さんには、自身の問題解決能力と姿勢を高めるよう、そして論理性や創造性をさらに培っていきよう期待したい。そのためのお手伝いが、学生と教員の接触の場である実習を通してできれば教員としてたいへんありがたいと考えています。

科目名：生命科学実習Ⅶ（医学科第2学年前期／必修）

履修者数：89 配布数：61 回収数：41 回収率：67.2%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
3.4	4.3	4.0	3.8	3.9	3.7	4.0	3.7	3.8	3.8	3.8	3.8	3.9
問14	問15	問16	問17	問18								
3.8	3.9	3.9	3.9	3.8								

＊評価に対するコメント

生命科学実習Ⅶコーディネーター 伊藤 喜久

今年度も、昨年と同様応分な評価を頂きました。

これは、基礎免疫から臨床応用まで広い領域に渡りバラエティに富む教科自体の魅力と、授業など他の教育カリキュラムの履修進捗度、レベルにある程度合致したこと、学生諸君が興味を持って実習に臨んだためなどによるものと思います。これからも各担当教室に引き続き創意工夫をお願いし、より良い実習を目指します。

要望いただいた実習書の見直しを行い、簡単にわかりやすく、より使いやすいものに改善します。

免疫学の理解をさらに深めるために、実習書をあらかじめ配布するように務めます。

科目名：生命科学実習Ⅷ（医学科第2学年前期／必修）

履修者数：92 配布数：85 回収数：83 回収率：97.6%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
3.3	4.7	4.3	3.9	4.0	3.6	4.0	3.7	3.8	4.0	3.9	4.0	4.1
問14	問15	問16	問17	問18								
4.2	3.8	4.0	4.0	4.0								

＊評価に対するコメント

生命科学実習Ⅷコーディネーター 中村正雄

昨年と評価がよく一致しており、学生諸君は基礎医学実習における本実習の狙いを理解し実習に臨んでいると理解できます。問6の低い評価は、不慣れな実習にできるだけ丁寧な指導や説明を教員に求めている表れでしょう。個々の学生諸君の知識と手技に大きな差異があり、初歩的な指導に十分時間を割けないことがあります。実習中、教員は常に学生からの質問に備えています。学生諸君から指導される教員に、直接質問して指導を求めることをお勧めします。

科目名：基礎医学実習Ⅳ（医学科第3学年前期／必修）

履修者数：95 配布数：92 回収数：79 回収率：85.9%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
4.3	4.8	4.6	4.4	4.6	4.2	4.3	4.3	4.3	4.4	4.2	4.2	4.1
問14	問15	問16	問17	問18								
4.2	4.0	4.3	4.3	4.2								

＊評価に対するコメント

基礎医学実習Ⅳコーディネーター 若宮伸隆

各評価項目とも全て平均点が4点以上であり、本実習は、昨年度に引き続き好感を持って受講生諸君に評価されたと思います。特に、問4、5の平均評価点が高いことは、今年度の課題とした「実習目的に関するガイダンスの充実」と「実習解説時間の短縮」に関する改善策が実を結んだものと言えます。一方で、問13「レポートの量と内容」、問15「実習機材等の性能」で、評価1が各1名ずつあった点は、次年度以降の課題にしたいと思います。特に、「実習機材」では、第三実習室の生物顕微鏡の中に老朽化して性能が低下しているものが混在しており、更新する必要があると思われます。自己評価項目である問1、2、3の高得点が示すように、積極的に参加する形で展開される本実習の体制を、今後も維持して行きたいと考えています。

科目名：基礎看護技術学Ⅱ（看護科第2学年前期／必修）

履修者数：60 配布数：59 回収数：58 回収率：98.3%

\*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13
4.5	4.8	4.6	4.5	4.6	4.0	4.0	3.7	4.2	4.5	3.7	3.9	3.7
問14	問15	問16	問17	問18								
4.1	4.1	4.3	3.8	4.1								

\*評価に対するコメント

基礎看護技術学Ⅱコーディネーター 升田 由美子

例年のことですが、授業の出席率・参加態度ともに評点が高く、この科目に対する興味・関心の強さが現れています。採血、筋肉内注射、皮下注射などの検査・与薬に関連する看護技術は、対象者に与える影響も大きく、正確な知識と確実な技術が要求されています。看護技術習得についての問11の評点が3.7と他の項目と比較して低く、3割の学生は演習だけでは技術が身につけていないと評価しています。基礎看護学実習室には採血や注射の練習用モデルが揃っていますので、積極的に自己学習をして下さい。もっと生体を実施したいという意見もあります。注射・採血ともに学生間で実施する場合には、事故防止策や演習担当教員数増加などの検討が必要です。看護実践能力の育成に向けて改善に努めます。なお、3・4年生になって困らないように注射器・注射針の取扱いは時々自己学習しましょう。



秋（旭川空港から望む大雪山連邦）

## 医学科第2年次後期編入学式

平成19年度医学科第2年次後期編入学生の入学式が平成19年10月1日（月）午前10時00分より事務局第一会議室において執り行われました。

当日は、吉田学長より編入学生に対して祝辞が述べられ10名が旭川医科大学生としての新たなる一歩を踏み出

しました。

編入学生は以下のとおりです。

桑名梨里子・西田 倫・信田大喜子・藤井 理恵  
真鍋 淳・猪上 尚徳・鈴木 景子・濱口 牧子  
藤山 朋代・山本 恭史



## クリスマス・コンサート(室内合奏団)

本学の室内合奏団による、ちょっと早めのクリスマス・コンサートが、12月9日（日）14時00分より病院玄関ロビーにて開催されました。当日は、日曜日の昼間ということもあって入院されている方々以外にもお見舞い

来られた方々や学生が詰掛けました。外はクリスマス・コンサートらしく雪の降る中、約40分という短い時間ではありましたが、全8曲+アンコール曲を演奏し沢山の拍手を受けていました。



## クリスマス・コンサート(ブラスアンサンブル)

平成19年12月22日(土)の午前10時00よりブラスアンサンブルのクリスマス・コンサートが病院玄関ロビーにて開催されました。

昨年はノロ・ウィルスの流行により開催の叶わなかったコンサートですが、今年は無事に開催することができました。朝早くからの会場設営が大変でしたが開演時には普段は本学の学生団体のコンサートに接することの

少ないお見舞いの皆さんを含め沢山の方々が玄関ロビーに詰掛けていました。総勢58名による3部構成のコンサートは懐かしのウルトラヒーローから始まり、アニメソング、クリスマスソングと続き、ショート・コントやお客様へのプレゼントを交えた演奏など全10曲+アンコール曲の90分間は見事な演奏で聴衆の皆さんから暖かい拍手が贈られていました。



## クリスマス・コンサート(合唱部)

ブラスアンサンブルと同様に昨年は開催できなかった合唱部のクリスマス・コンサートが平成19年12月22日(土)18時30分より病院玄関ロビーにて開催され3団体の最後を締めました。

会場には入院されている方々やお見舞いの方々、近隣に住まわれている方々が大勢足を運ばれて歌声に耳を

傾けていました。途中、かわいいサンタクロースやあやしいトナカイのダンス(本号の表紙参照)を挟んでの全13曲+アンコール曲に笑いあり?笑いあり??笑いあり??の楽しい時間を過されたひとときでした。(……会場の撤収と復元、お疲れ様でした。)



### 平成20年度授業料の一括納付について

授業料は、前期分を納付する際に後期分も併せて年額として一括納付することができます。希望される方は、下記の期限までに印鑑を持参のうえ、事務局管理棟1階の会計課出納係へ申し出て下さい。

**申込み期限 平成20年4月7日**

※一括(年額)納付については、毎年手続きが必要となりますので注意して下さい。

(会計課出納係)

## 教員の異動

H19.9.1	昇任	医学部内科学講座(消火器・血液腫瘍制御内科学分野)	准教授	蘆田	知史
H19.9.1	昇任	医学部外科学講座(循環・呼吸・腫瘍病態外科学分野)	准教授	稲葉	史郎
H19.10.31	辞職	病院第三内科	講師	渡	浩子
H19.11.1	昇任	病院第三内科	講師	藤	幹修
H19.12.1	昇任	医学部看護学講座	准教授	阿	幸子
H19.12.1	昇任	医学部看護学講座	准教授	伊	智子
H19.12.1	昇任	医学部看護学講座	准教授	藤	由美
H19.12.1	昇任	医学部看護学講座	准教授	升	子至
H19.12.15	辞職	医学部放射線医学講座	准教授	秀	至
H20.1.1	昇任	医学部病理学講座(腫瘍病理学分野)	准教授	柳	裕二

## トレーニング・ルームがリニューアルされました

体育館2階のトレーニング・ルームの修繕工事と器具の更新が終了してリニューアルされました。今までは、使用方法に問題がありゴミの回収並びに清掃がされていなかったことから、かなり汚い環境にありましたが、今回のリニューアルに伴い体育館内部は全て土足厳禁となりました(今までも土足厳禁でしたが)。今後の使用においては学内で使用している靴は脱ぎ、**裸足又は運動靴に履き替えて**清潔に使用して下さい。(普段運動靴でいる学生は、別の運動靴に履き替えること)

また、体育館1階の男女更衣室並びにシャワー・ルームについては、現在の使用状況が劣悪なため、1月末までに更衣用ロッカーを廃棄して別の物品に入れ替えることにしました。それに伴い掲示にて「お知らせ」していますが、更衣室に置きっ放しの品物に心当たりのある学生は**1月17日(木)17時00分まで**に片付けて下さい。それ以降に放置している物は全て廃棄処分とします。

繰り返しますが、体育館内は全て土足厳禁です。体育館入口までのカーペットを張り替え、2階への階段、各更衣室への通路もカーペットを張り替えました。トイレについても新たにサンダルを備え付けましたので土足での使用は絶対に止めて下さい。

それぞれの「使用上の注意」に記載しているとおり、放置している物品等が有れば、定期的に廃棄処分とします(学生支援課での一時保管はしません)ので、使用するために持込んだ物品は絶対に放置しないで持ち帰って下さい。

一人のだらしない行為が、全体の使用状態を悪くすることになりますので、使用する一人ひとりが快適な環境を維持するよう心がけて下さい。

### トレーニング・ルーム使用上の注意

- トレーニング・ルーム内は**土足厳禁**。(必ず裸足又は内履きの運動靴に履き替えること。)
  - ゴミはゴミ箱に捨てること。(落ちているゴミを見つけたら同様に捨てること。)
  - 器具の取り扱いに十分注意すること。使用した器具は所定の位置に必ず戻すこと。
  - 器具に不具合が生じた場合は必ず学生支援課まで連絡すること。
  - トレーニング・ルーム内には絶対に私物は置かないこと、備え付けの物品以外の物があれば定期的に廃棄処分とします。
  - 盗難に十分注意し貴重品は絶対に持込まないこと。
- 以上の事項が守られない場合は、使用を禁止する場合があります。

学生支援課

### 更衣室並びにシャワー・ルーム使用上の注意

- 更衣室並びにシャワー・ルームは**土足厳禁**(必ず靴を脱いで裸足又は靴下にて使用すること。)
  - ゴミはゴミ箱に捨てること。(落ちているゴミを見つけたら同様に捨てること。)
  - 洗濯機、シャワーの使用には十分注意すること。(故障の場合は必ず学生支援課に連絡すること。)
  - 更衣室並びにシャワー・ルームには絶対に私物は置かないこと、備え付けの物品以外の物があれば定期的に廃棄処分とします。
  - 盗難に十分注意し貴重品は絶対に持込まないこと。
- 以上の事項が守られない場合は、使用を禁止する場合があります。

学生支援課



トレーニングルームへの階段



リニューアルされたトレーニングルーム



男子更衣室ロッカーの現状